



「FINE CITY」と食文化 ～シンガポールより

日本航空 シンガポール支店 深田 康裕

シンガポールは別名「FINE CITY」と呼ばれるのを聞いたことがあるでしょうか？「すばらしい都市」ではなく「罰金都市」として地元の人が揶揄してこう呼びます。法律が厳しく高額な罰金が、タバコやごみのポイ捨ては7万円以上の罰金が定められていることは有名ですが、面白いのはドリアンのバスなど公共交通機関への持ち込みも禁止されており罰金が定められているのです。赤道直下の南国ですのでフルーツはいろいろな種類がありとても甘くおいしいのですが、地元の方々が大好きなのは果物の王様「ドリアン」です。それでも、あの強烈な匂いはさすがに公共迷惑ということなのでしょう。またこちらに入国する際にはタバコはすべて課税されますので愛煙家の方々はご注意ください。1カートン約80SGD(シンガポールドル；6,000円程度)課税されますが、無申告で税関で見つかるとう1箱あたり200SGD(1カートンでは2,000SGD：15万円弱)もの罰金を取られたという話もよく聞きます。お持ちになる場合は必ず申告するようにして下さいをお願いします。

シンガポールでの楽しみの一つは「食」でしょう。シンガポール人は食べるのが本当に大好きです。街中に飲食店がいたるところにありその多さにびっくりされることと思います。この地では世界各国の料理が味わうことができます。中華を始め、イタリアン・フレンチなどの西洋料理、マレー・インド・タイなど近隣諸国のアジア料理、そして和食と何でもあり、食べるものに困ることはまずありません。お値段のほうはというと、レストランでは日本と比べてもあまり安くありません。リーズナブルに済ませたいなら、地元シンガポールやマレーシア、インドネシアなど庶民的な味を提供するホーカーズと呼ばれる屋台が集まったフードコートがおすすめです。たいていのものは3～5SGD(200円から350円程度)で食べられる庶民の味方です。どこのホーカーズも地元の方々と混み合っていてアジアの熱気を感じられるところでもあります。

ホーカーズでの食事の際にはポケットティッシュが必需品です。地元の方々はまずポケットティッシュを空いているテーブルにおいて場所を確保してから、食べたいもの



を屋台に買いに行きます。紙ナプキンは設置されておりませんので、食事の後に手や口のまわりを拭いたり、あるいはテーブルを拭いたり本当に重宝します。日本では駅前に行けば無料で配られています、こちらでは無料で配られることはありませんので荷物にならない程度の日本から余分にお持ちいただくことをお勧めします。

ホーカーズでの頼み方はというと、どこの屋台でもカタコトの英語で十分通じますし、英語が苦手という方も食べたい屋台に行って指差せば問題ありません。もちろんたくさん屋台が出ているのでどれを食べようかと迷ってしまうという方もいるかと思いますが、やはり安くておいしい店には人が並んでいますので、行列の長さをみて頼むものを決めるというのも一案です。

またちょっと珍しい食べ物でおすすめなのは、「カヤトースト」と呼ばれるパンです。これは焼いた食パンに「カヤジャム」とバターをはさんだもので、この「カヤジャム」はパンダンリーフと呼ばれる葉とココナツミルクなどを混ぜあわせた甘い緑色のペーストでなかなか美味です。地元の方には大変人気で朝からコーヒーショップと呼ばれるお店に入って、甘い砂糖いりのコーヒー(これをKOPI コピとよびます)とこのカヤトーストとで朝ごはんを食べている姿をよく見かけます。

皆さんも朝起きたらホテルからちょっと外へ散歩に出て、コーヒーショップでKOPIとカヤトーストを食べて、そして精力的に街の中で観光、買い物なされたあとにはホーカーズで熱気の中でローカルフードを楽しんでみてはいかがでしょうか？